

姉妹都市 米国・シヨウニー市を訪問

仁賀保中学校の生徒ら20名が

親善訪問団として交流

9月27日から10月4日まで、親善訪問団（仁賀保中学校生徒16人、引率4人の計20人）が米国オクラホマ州シヨウニー市（平成2年姉妹都市提携）を訪問しました。今回で17回目の訪問ですが、市となってからは初めての訪問となりました。



サンタ・フェ・デポ前での記念撮影

シヨウニー市民からの温かい歓迎を受けた訪問団一行は、シヨウニー市の歴史が分かる「サンタ・フェ・デポ」やシヨウニー中学校への訪問、地元高校のフットボール観戦など充実した5日間のホームステイを体験しました。

たくさんさんの思い出を共有したホストファミリーへの感謝の気持ちと広大な大地にふれた感動を心にきざみ、帰国の途に着きました。



JJ 牧場でドリームキャッチャー手作り体験

シヨウニー市訪問記

アメリカの広大な大地、建物（お土産）の規模や食事の量の多さなどすべてがビッグで驚いた。

阿部 穂菜美（2年）
 にかほにもシヨウニーにもTDKの工場があるという驚きもとても嬉しかった。

佐藤 悠美（2年）
 この訪問で「何事にも挑戦」することが大切と教わった。この目標を忘れずに、挑戦し続けたい。

飯尾 秀香（2年）
 私のあやふやな英語を親身に聞いてくれて、丁寧に話してくれるホストの優しさが嬉しかった。

本間 千慧（2年）
 短期間の生活でしたが、再びシヨウニーを訪れ、「みんなと会いたい」と強く感じた。

東海林 千鶴（2年）
 とてもオープンな感じで、自分のロッカーが廊下に並んでいるなど、日本の中学校との違いを見ることができた。

中村 友美（2年）
 多くの会場で自分たちが紹介され、拍手や歓声をいただきシヨウニーの人々の心の温かさを感じた。

戸崎 元子（2年）
 シヨウニーでの滞在中は、ほとんどの事が初めての体験でした。いろんな事にチャレンジできてよかった。

横山 百花（2年）
 この訪問の体験を生かし、これからも積極的に、自信を持って生活していきたい。

萩野 萌子（2年）
 意思は相手にしっかり伝えることが、コミュニケーションを取る大切な要素であると学んだ。

村上 紗貴（2年）
 長時間の移動となる飛行機では寝付けなかった。想像をはるかに超えるハンバーガーの大きさにあ然とした。

阿部 大祐（2年）
 自分の意思をはっきりと相手に伝え、相手の思いをしっかりと受け止めることが、人と人のふれ合いに一番大切だ。

山田 雅浩（2年）
 英語が分からなかったけど、積極的に、粘り強くがんばれば理解できた。積極性が大切だと感じた。

加藤 友望（2年）
 たくさん練習していったアトラクションの披露、みんなとても喜んでくれてとても嬉しかった。

村山 宏喜（2年）
 初体験のホームステイ5日間が無駄にならないよう、これからの生活に生かしたい。

佐藤 翔平（2年）
 一番使った英語は、「サンキュー」。シヨウニーの人達はとてもとても親切でした。

和泉 良平（2年）

大きな貢献と快挙をたたえる

TDK野球部が県民栄誉章を受章



小松 由佳
 TDK 使式野
 船木 千代

10月20日、秋田県庁第2庁舎大会議室で秋田県県民栄誉章顕彰式・記念報告会が行われ、第77回都市対抗野球大会で初優勝し東北勢として初の栄誉に輝いたTDK野球部と世界第2の高峰・K2の登頂に日本人女性として初めて成功した小松由佳さん（秋田市）に県民栄誉章が贈られました。

この日受章したTDK代表の船木監督らと小松さんに対し、出席した関係者や県民約300人が秋田県の名を高めたことへの大きな貢献と社会に明るい希望を与えたことを祝福しました。

記念報告会で、TDK野球部の船木監督は「野球は勝つことに意義があるという強い信念を持つことや選手の間を伸ばすことがレベルアップにつながる」と。県民の力強い応援で、選手が存分に力を発揮してくれた」と語りました。

県では、昭和61年に県民栄誉章制度を創設。これまでプロ野球・中日ドラゴンズの落合博満氏をはじめ、8個人、1団体が受章しています。



象潟ウェンズディークラブ(バドミントン) 地域または職域におけるスポーツの健全な普及および発展に貢献したことが認められて受賞。

秋田県民謡大会で優勝

佐藤良雄さん(中野)



◎第11回秋田おほら節全国大会 熟年の部 優勝
 ◎第10回秋田馬子唄全国大会 高齢の部 優勝

文部科学大臣表彰

生涯スポーツ優良団体表彰



象潟ウェンズディークラブ(バドミントン) 地域または職域におけるスポーツの健全な普及および発展に貢献したことが認められて受賞。